

教育学部教育学科 小学校教育コース

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

教育学部小学校教育コースは、多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯にわたり学び続け、社会や学校で活躍できる優れた小学校教員になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

1) 教員としての自己分析・自己研鑽の力

学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。

2) 教員としてふさわしい豊かな人間性

多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」となるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。

3) 変化する社会、学校で活躍できる力

学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎的科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、“特別支援教育”、“幼児教育”、“英語教育”、“数学教育”の4つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。

また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を『子ども教育領域』と『子ども理解領域』に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。

<小学校教員として必要な基礎科目>

- 1) 『教職一般領域』では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」、「教育心理学」、「教育課程総論(小・中・高・養)」、「教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)」などの科目を配置します。
- 2) 『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、教科等の領域から「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

<自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目>

- 3) 『学科共通領域』では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。
- 4) 『専修領域』では、1年でハロースクール、ハローナーサリーとして学校園の見学を実施した後、学校現場での学びとして、2年次の「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。
- 5) 『専修領域』には、異なった視点から今までの学びを見直す“学びほぐし”を行うため、「数理探究の扉」などの科目も配置します。

<4種の専門教育に関する科目>

- 6) 『専修領域』には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、“特別支援教育”“幼児教育”“英語教育”“数学教育”の4つのプログラムに応じた科目も配置します。

<小学校教員の専門性をより深める科目>

- 7) 『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」、「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。

8)『子ども理解領域』では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」、「子ども発達環境論」、「子ども企業研究」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。
- 2) 「数理探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうなのか、“なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掴み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチできるようにします。
- 3) 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。
- 4) 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・教育実習（小・中・特別支援）・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

教育学科小学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとするができること。

[求める要素：関心・意欲・態度]

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること。

[求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力]

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとするができること。

[求める要素：主体性・多様性・協働性]